



おちほ

第80号 平成27年1月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田 正 則
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>



素晴らしい秋晴れの中、落穂寮のレクリエーション大会を開催しました。

午前の部は徒競走。多くのご家族の方、来賓の方が応援してくださるなか、グラウンドのコースを利用者さんは、一生懸命駆け抜けてゴールされていました。

ゴールされた利用者さんは、それぞれ景品を手になされ、とても素敵な笑顔を見せておられました。

徒競走は、利用者さんだけでなく、新人職員も自己紹介をかねて全速力で走りました。

最後は、ご参加頂きましたご家族や職員の子供たちの元気な走り、応援の声が落穂寮に響いていました。

午後の部の様子は5ページに。

アナと杏奈

山下陽一

「アナ雪」フィーバー

ディズニー映画「アナと雪の女王」は配給会社の周到な作戦勝ちというべきか、幼児からお年寄りまで、しかも世界中で熱狂的現象を呈しています。館内で「ありのまま」の歌を大合唱する映画館もあつたりして大変なフィーバーぶりです。近くに住むまだお話しも十分にできない女の子がおほつかない発音で英語の歌詞を歌っていましたが、あいらしいというべきか、恐るべしというべきか。中でもベストソングは雪の女王が歌う邦訳「ありのまま」でしょう。松たか子の歌に、女優なのに歌唱力がすごいと思つたのはわたしだけではないでしょう。映画館から出てきた親子にインタビュしていました。「もう何回観たの？」の質問に「三回かな、でもママはもっと」こんなやりとりがニュース報道されていましたが、この映画が「ママ」を毎回夢中にさせたのは何だったのでしょうか。

なぜ「ありのまま」が

アニメキャラクターの口元と日本語訳がぴったり合っているとところが、ディズニーは日本向けのカットも作っているのかと感心したので

すが、実はこれは翻訳家の労を多とすると、英語のフレーズの口パクにあわせて訳語を当てるという緻密な作業の結果ということでした。なかでもベストソング「レットイットゴー」で、その意味は「解き放され自由でいよう！」というほどの意味。それを「ありのままに」とした翻訳家もさすがです。

この映画は子育て中のお母さんたちにもろ手で迎えられたそうですが、その訳は「ありのまま」の辺にあるのではないかと思えます。

先ほどのNHKのテレビドラマで「赤毛のアン」の訳者、村岡花子の親友だったとされる柳原白蓮が年下の帝大生との道ならぬ恋に命がけで出奔した挿話がクローズアップされていたようですが、現代は女性の生き方が塞がれた大正とは時代背景が違うにもかかわらず、「ママ」たちは閉そくした時代に自由奔放に生きた白蓮にヒロイズムを見ているのでしょうか。

「毎日普通に過ぐせませすよーり」

私はジブリ映画が好きでほぼ同時に掛かっていた「思い出のマーニー」も早々に観てきましたが、ストーリーの展開は時間軸が五十年間

も前後に交錯していて、理解し難いのではないかと思いましたが、これを観た子どもたちはどのように理解したのか興味のあるところです。私の好みからすると、現実生活で抱える問題についていろいろ考えさせてくれるのは、「アナ雪」よりむしろ「マーニー」の方に軍配を挙げたいと思います。

杏奈はいわゆる福祉制度にのつている子で、両親を事故で亡くし養親のもとで育てられています。彼女は喘息をもつた中学生。転地療養をするため海辺の村にしばらく住むことになりました。彼女は神経が繊細であるため、土地の世話好きな肥満した有力者の娘に同調できません。世話好きなのですが、繊細さに欠けた鈍い神経の持ち主のおせっかいはホトホト閉口したのでしょう。七夕の笹に吊るす願いごとを短冊に「毎日普通に過ぐせませすよーり」と書きました。それを肥満した女の子に無理やり取りあげられました。そしてついに「いいかげん放つておいてよーふとつちよぶた！」と突き放します。この姿勢がますます彼女を孤独に追いやることになるのです。そして祭りを抜け出し入り江にやってきましたが、そこで対岸に洋風の屋敷がありその窓辺に金髪を梳いている謎の少女マーニーを発見します。はたして「マーニー」とは誰？

青春と孤独

「アナ雪」も「杏奈」も両者に共

通しているのは、少し早めの未熟な青春を歩むとき、それに伴う孤独を過ぐすストーリーだと思えます。「アナ雪」はすべてを凍らせる自分の魔法の力を恐れしました。「杏奈」の養親は彼女の生活費の給付を受けていたことを知ります。そして繊細な神経の持ち主であるための周囲になじめないことによる孤独でした。「アナ雪」は氷の城で自分に目覚め、「杏奈」は対岸の洋館で自分の出自を知ることになるのです。

「青春」とは古代中国思想による季節を色と結びつけて表すことばでした。春は「青」、夏は「朱（あか）」、秋は「白」、冬は「玄（くろ）」とされ、それぞれ「青春」「朱夏」「白秋」（北原白秋はこれによる）、「玄冬」とされ繰り返す季節をあらわすことばでした。このことから「青春」は人生における未熟で悩み多いことの時期として意味づけられたようです。しかもこの時期は成長し円熟していく過程において避けることができなく誰もが通らねばならないように定められているのです。

杏奈は七夕の短冊に書いた「毎日が普通に過ぐせませすよーり」の願いとて精いっぱいこの思いが周囲の人々にとつては他人への無関心と捉えられていたのです。彼女はこのような自分に自己嫌悪しているのですが、「それを装つてもだめ、みえているんだから」と女の子にいわれました。七夕の皆が楽しくそうにしている場にいたたまらなくなつて走り去っていききました。

「光り」が磨く

寮長 太田 正 則

今年も始まったばかりではありませんが、昨年を振り返るとやはり異常気象の影響からか台風の上陸が多く、また御嶽山の噴火や長野県北部地震など自然災害が目立つ一年だったように思います。これらの災害によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

さて、昨年度滋賀県や湖南省が主として実施いたしました「糸賀一雄生誕百年記念事業」について、単年度で終わるのではなく先駆的な福祉活動に取り組んだ糸賀氏の思想と実践を現代の福祉に置き換えて考え、啓発していくことが大事であるとのことから、今年度も湖南省糸賀一雄生誕百年記念事業実行委員会が主となり、引き続き啓発事業に取り組むことになりました。主な内容としては、

- 一、市民向け啓発講座
- 二、実践記録集
- 三、イベントブースへの出店

などです。一と三についてはすでに事業を終えています。二については年度内には発行できるのではないかと思います。

ご承知のように落穂寮は近江学園から最初に枝分かれした施設で、今年で六十五(六十四)年が経過します。私はその過程の後半をこれまで見させていただきました。経済ではバブル絶頂期からバブル崩壊、そしてリーマンショック、デフレスパイラルへとつながり、現在に至っています。福祉においても競争原理が働くことでよりの質の高いサービスが提供されるとの考えから、措置から契約、支援費制度から自立支援法、そして総合福祉法へと移行し、落穂寮も平成十二年に成人施設へと転換し、

「ありのまま」とは、「普通」を装うために無理やり他人の行動規範に合わせる努力をしたり、沿っていない自分を無理に打ち消すことではなく、そういった複雑な自分の「ころ」をそのままにして、目前の課題のみに向つてとにかく関つてみるこ

と。「アナ雪」を三回もそれ以上観たという子育て中のママは、その都度別の自分に気付かされていたからではないでしょうか。新し自分を発見したい人はこれらの映画を是非ご覧あれ!

(二〇一四・一一・一一)

二十年には新体系へ移行いたしました。福祉事業は福祉サービスと捉えられ、職員の意識がサラリーマン化するなど、良くも悪くも社会生活における人の価値観が多様化し、それぞれが認められなければならぬものとして存在するようになりました。そしてそれは、十年前の常識が現在では非常識として認知されることに繋がっています。国の福祉に対する考え方も、つまり、人として何を大事にしていかなければならないのかということを蔑ろにしたことにより、多くの大人が生活の為に選択せざるを得ない方へ向いて生活活動をしてきました。これからの社会を担っていく世代の価値観は、それらを見て培われてきているのではないかと思います。

いただき、私自身がその蔑ろにされた環境の中で、目の前の事だけに囚われて福祉に携わってきたのではないかとこの事に気づかされました。自分がこれまで見て、そして辿ってきた道は、良い意味で人を第一にとらえていた国の在り方の中の福祉であり、糸賀思想が息づいた中で福祉でありましたが、その見てきたものがこれからの福祉を担っていく人たちに伝える言動をしてきたのかというところではありませんでした。この二年間、多くの方の価値観に触れ、思いを知り、改めて「この子ら」と関わることで人が磨かれていくことを実感しました。そして、そのうれしさや楽しさを伝えていければと思います。

昨年度、糸賀一雄生誕百年記念事業に携わらせていただく機会を

新人紹介 今年度 第一弾!

皆様はじめまして。

林 眞壽美と申します。落穂寮

にお世話になってから3カ月が過ぎました。女子寮の利用者さん達との関わりの中で少しでも多くの気づきを大切に日々勉強させて頂いています。反省する事も多々あり、先輩職員方に質問したり疑問を投げかけたりの現在ですが、常に利用者さんの「思い」に、よりそえるような職員でいたいと考えています。落穂寮の利用者さんの生活は、始まったばかり。楽しい事も、嬉しい事も、苦しい事も、共有し、良い思い出づくりをしていきたいです。余談になりますが、



▲ゆうこさんと林 ST

私は落穂寮の風景が大好きです。

出勤時に登る落穂坂、坂を登り

終わると見えてくる六角棟、利用者さんの暮らす男子棟、女子棟の寮、グラウンドの片隅に、ひっそりとおられる地蔵様、穏やかで静かな気持ちになります。

いつもいつも、自分自身を穏やかな精神で利用者さんに関わりたい、そう思います。

始まったばかりの落穂ライフに、夢と希望が、いっぱいです。

どうぞ末長くよろしくお願ひ致します。

皆さん、はじめまして。この度

12月から落穂寮の女子棟で生活支援員として働かせて頂くことになりました岡田 郁恵と申します。

以前は福祉とは異なった職種に従事しておりましたが、二年前に家族との死別を経験し、それを機に

福祉業界への転職を強く決意しました。そして資格取得の為半年間

勉強し、その間に障がい者施設へのボランティア活動のお誘いを頂

いて参加したのですが、初めて障がい福祉という分野に触れとても

▼紀代さんと岡田 ST



魅力を感じ、私も働きたいと強く思いました。入職して一カ月が経ち、少しずつではありますが利用者さんとコミュニケーションが図れるようになって参りました。まだまだ支援が思うようにいかず不安や戸惑いもありますが、頼もしい先輩方のフォローにより支えられ、学び、日々着実に前進させて頂いているのではないかと感じております。

今後も沢山ご迷惑をお掛けすることとは思いますが、笑顔を絶やさずことなく、利用者さんへ寄り添えるような支援ができるよう努力し一生懸命頑張る所存ですので、宜しくお願ひ致します。

初めまして、この度、縁あり

まして9月1日付けにて地域生

活支援室にて皆様と一緒に働か

せて頂く事と成りました下村

恵一です。昭和47年に生を頂き

父の仕事の関係にて49年に草津

市に移住してきました。学校卒

業後ダンボール(総合卸)メー

カーに就職し運行管理会社を経

て約4年前より障害福祉職で働

かせて頂き現在に至ります。私

が障害福祉に興味を持ったのは、

養護学校のバスの運転業務を手

伝っていたのと、私自身が先天

性の病気にて、生まれてすぐに

脾臓を摘出し幼少期は入院を

繰り返し、色々な方々に助けて

頂きましたので、御利用者様と

同じ気持ちで寄り添い、少しで

も生活(仕事)で社会に貢献出来

ればと考え障害福祉の職にて働

かせて頂くきっかけと成りまし

た。落穂寮で働かせて頂きました

てまだ4カ月。失敗ばかりの毎

日ですが、皆様に助けて頂き、

御利用者様には癒され毎日楽し

く働かせて頂いております。皆

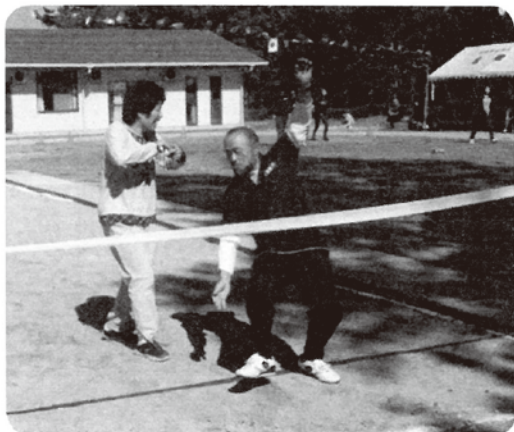
様素直で目が澄んでおられ、自

分自身の素直さの無さに対し考

えさせられています。障害と言っ

ても身体的障害、知的障害、精

レクリエーション大会 ←二ページからつづき... (午後の部)



ご家族の方と一緒に昼食を済ませてから、多目的学習棟に移動して午後の部開始です。

最初は、『小池千鶴子&リトルギャルズ』による、素敵な歌声と演奏に、利用者さんはそれぞれに体でリズムを表現したり、手拍子を送っておられました。

昨年度もお越し頂いた『小池千鶴子&リトルギャルズ』ならではの選曲です。利用者さんもお家族の方、職員も一緒になって楽しむことができました。



来年度も来て頂くことを『小池千鶴子&リトルギャルズ』と約束した後は、有志職員が楽しい衣装でダンスを披露。ステージだけでなく、利用者さんとなつて一緒に踊る姿をご家族の方はとても微笑ましそうに見ておられました。

本当に楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうものです。

ご参加いただきました方々、本当にありがとうございました。



▲下村 ST

☆ 神的障害など様々ですが、個人としては特性(個性)を強く持つておられる御利用者様が沢山いらっしゃるのか、苦しんでいらっしゃるのか、楽しみは何か自己満足な仕事をしていないかと考え反省と勉強の毎日です。社会はグローバル化が進み物凄いスピードにて物事や法律も変化していきますが、スピードをおとし皆様と共に個々の幸せに向かい前向きに歩んで行きたいと思っております。私自身地域生活支援室所属にて他部署の方々とお会いお話し出来る機会は少ないと思いますが、見かけましたら気軽に話しかけ仲良くして頂ければ幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

男子棟

飯 盒 炊 爨

いよいよ今年も夏の恒例行事の飯盒炊爨が始まりました。場所は、今回も希望が丘文化公園です。朝御飯を食べられ、各利用者さん毎に外出の身支度をされた後は、マイクロバスとキューブに分かれて出発です。道中では、これから何が始まるのか？と胸を躍らせながら、ドライブを楽しまれています。

そして、いよいよ到着です。公園では、先に到着していた職員が食材を焼いたり、切ったりと準備をしています。そして、出来上がるまでの間に職員と公園周りを散歩されたり、焼いている際のおいしそうなお匂いに待ちきれず覗いてみようとする方など利用者さん御一人御一人が出来上がるのを待つておられました。

その後、しばらくしていよいよ出来上がりしました。メニューは、焼きあがったお肉や野菜をごはんに乗せたバーベキュー丼です。全員がそろい、待ちに待ったごはんのスタートです。たくさん食べられとても満足気に過ごされました。



利用者さんの、笑顔一杯の顔を見させていただけ、今年も行えて本当に良かったと思います。来年も御一人御一人がとても満足していただけるような楽しい飯盒炊爨をしたいです。

男子棟

親 子 旅 行

今年も親子旅行へ行ってきました。2年に一度の雄琴温泉湯元館へ大型観光バスに乗り込み総勢78名の大移動です。1時間程のドライブを楽しみ、現地到着!!すでに色鮮やかなお料理が並んでいて、いただきますが待てないくらいにテンションの上がる利用者さん、恒例の新人紹介をして、さあ、「いただきます」です。

みんな「いただきます」をすると勢い良く召し上がっていく人たち、ゆっくり味わいつつ召し上がっていく人たち、保護者の方との時間を大切にしつつ、食事を楽しまれる人たち、ごはんのおかわりを下さい!!と大きな声が響く大広間、次々と出される料理におなかいっぱいという声も出るほど。楽しい時間もあったという間に、帰りの時間となり行きと同様、大型バスにゆられつつ、お腹いっぱい、スヤスヤ眠られる人たちもいるなか、無事におちほに帰ってきました。



あんなにいっぱい食べたのに、夕食をしっかりと召し上がる利用者さんには、いつも驚かされるどころです。来年はどこに行くことになるでしょう、お楽しみに☺



女子棟 飯盒炊爨

輝く夏！広い空の下、今年も女子棟の飯盒炊爨の季節がやって参りました。

今年の飯盒炊爨は、お炊事にも協力してもらい、調理してもらったカレーライスとサラダ、デザートにフルーチェを、グラウンドに用意されたテーブルとベンチに分かれて座り、いただきます。

当日は、お天気にも恵まれ、いつものご飯とは違った場所でも、みんなでワイワイ食べるご飯は最高です！



<ワ～イ！いただきます！>

<落穂のカレーは美味しいよ！>



今回は、残念ながら外で火をおこしたり、調理をしたりすることは出来ませんが、みなさん飯盒炊爨気分を楽しんでおられました。美味しいカレーライスを何度も「おかわりする！」と、みなさん大満足の様子でした。
この笑顔と食欲で、今年の夏も元気に乗り切り、また来年も飯盒炊爨に参加し、みんな揃って『いただきます』をしましうね！

女子棟

親子旅行

「今年は沢山食べました！」



今年も11月23日、勤労感謝の日には女子棟の皆さんで、親子旅行に行ってきました。ここ数年は琵琶湖の方に行くことが多かったのですが、今回は逆方向の山の方へ。場所は土山の「かもしか荘」です。行ったことがある方はご存知でしょうが、よく通行止めになる鈴鹿スカイラインの手前に古くからある施設です。
当日、旅行の準備を始めると、利用者さんの目はキラキラのワクワク状態に。外出着に着替えると待ちきれなくてソワソワ。時間になると、寮から同行される保護者の方と一緒にマイクロバス二台に分かれて出発、国道一号を南へ向かいます。約一時間で「かもしか荘」に到着です。到着してみるとびっくり、とても綺麗な建物になっています。実は、10年以上前に男子棟の親子旅行で来たことがあったのですが、その当時の

「親子でハイチーズ！」



面影(もつと古くてくたびれた)は全くありません。建物の中に案内してもらい、各々席に着き、食事が始まりました。お魚やお肉の料理が次々と運ばれてくると、皆さんそれぞれのペースで、速い人はあつという間に、ゆつくりの人はのんびりと、親御さんや職員と一緒に食事を楽しまれていました。いつもは、健康のために食事の量を制限されている方もこの日は特別、お腹一杯食べてもらいました。
今年の親子旅行は食事の時間が長くなってしまい、バスに乗ってごはんを食べに行ったりという旅行になっちゃいましたが、楽しい時間を過ごせたのではないのでしょうか。参加して戴いた保護者の皆様、ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。



(特別支援学校の先生方)

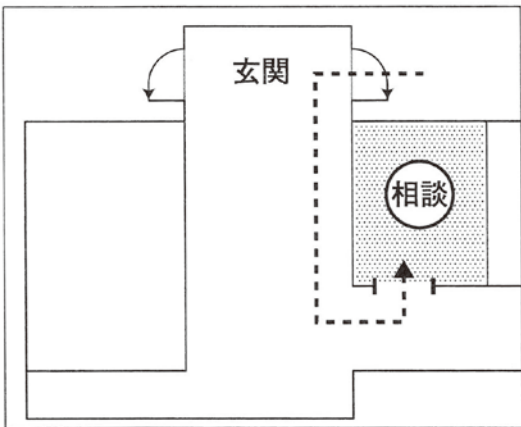
嬉しい訪問者

さて、今年も研修や交流と目的は様々ですが、沢山の方に落穂寮の利用者さんと関わりに来ていただけました。

春・秋には2回に亘って石部中学校の生徒さんがふれあい交流に、8月には石部南小学校の先生方が参加体験研修会に、10月には特別支援学校の先生方が新任研修で、毎年出会える人は変わりますが継続して訪れていただき、利用者さんと関わりを持っていただける事を落穂寮一同、嬉しく感じています。ぜひ、また来年もお待ちしております。

相談支援事業を 始めました

平成24年に障がい者の法律が改正され公的なサービスを受けるためにはサービス等利用計画を市町村に提出して支給申請を行なう事となりしました。3年間の猶予期間がありました。平成27年四月からは義務化され、利用計画が出されていないとサービスが受けられないこととなります。落穂寮でも今利用しておられる方の利用計画をどうするか検討した結果、当法人で相談支援事業所を立ち上げることになり、昨年(平成26年)5月に開設いたしました。現在2名のスタッフで計画の作成にあたっておりますが、何分初めての業務で悪戦苦闘しておりますが、一年近くがたち入所利用の方の利用計画



作成も軌道に乗ってきて、12月以降湖南省の要請を受け在宅の方の利用計画も作成させていただき、さらに近隣のグループホーム利用の方からも依頼があり、利用計画を作成させていただいております。

この1年近く相談支援を担当させていただいて、ご本人様、ご家族様、利用しておられる事業所の方々と面談させていただくと、ご本人様を取り巻く様々なことが見えてまいります。それとともに、力強く日々を過ごしておられるご本人様、ご家族様の姿も見えてまいりました。

これからも、ご本人様やご家族様の立場に立つて計画相談事業を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお力添えいただきますようお願いいたします。

相談支援専門員 中嶋貴一郎



ありがとうございます

社会福祉法人権の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。今後も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年12月現在

- (寄附金)
- (株)シガ技研
- (株)信基金属
- (物品の寄附)
- 小林 正明
- 原田 隆和
- 平岩 美晴
- 宇川 新藏
- 生命保険協会滋賀県協会
- (株)シガ技研
- (株)信基金属
- 坂田フミ江 (敬称略)

木言

夏に大きく育ち
冬に小さく育ち
それを繰り返して
木の年輪は作られる
常夏の国の木は年輪はなく
その木はもろい
冬の寒さが木を強くする